

病害虫発生注意報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

斑点米カメムシ類の多発に注意！

水田内および畦畔における斑点米カメムシ類の生息数が多く、斑点米被害の増加が懸念される。出穂後の本田防除の徹底や適切な雑草管理が必要である。

◎病害虫名 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）

1 発生地域：県下全域

2 発生程度：多い

3 注意報発令の根拠

(1) 7月15～16日の水稻病害虫定点調査の結果、畦畔・雑草地での斑点米カメムシ類の確認地点率は68.9%で平成25年(59.9%)より高く、平均虫数は11.8頭で平成25年(3.9頭)より多い(表1)。

また、水田内も、平均虫数は0.7頭で平成25年(0.2頭)より多い(表2)。

(2) アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの発生は、過去10年で最も捕獲虫数が多い(図1)。また、畦畔のイネ科雑草の除草が不十分な地点で生息密度が高い(図3)。

4 防除対策

<薬剤防除>

(1) 「てんたかく」等の早生品種では、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、「コシヒカリ」および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。

(2) 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合や、例年、発生密度が高い地域では、追加の防除を着実に実施する。

(3) 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるように散布する。

(4) 近隣に雑草地や麦跡不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。

<雑草対策>

(1) イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の繁殖場所となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行く。

(2) アカスジカスミカメは水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草に努める。

<留意事項>

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して、十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止に努めるとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

※養蜂が行われている地域では農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチの危害防止対策に努めること。

【参考資料】

◎ 斑点米カメムシ類生息密度調査結果

表1 水稻病害虫定点調査:畦畔・雑草地
(7月15~16日、20回すくい取り調査)

	アヒゲホソトリカスミカメ		アスジカスミカメ		トゲシラホシカメムシ		合 計 (その他斑点米カメムシを含む)	
	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)
本年	60.0	7.60	17.8	3.96	8.9	0.22	68.9	11.82
前年	68.9	4.16	44.4	3.40	33.3	0.49	86.7	8.31
平年	42.4	2.34	15.8	0.96	19.6	0.31	59.9	3.86

※調査地点数45、平年値は過去10年間の平均

※その他の斑点米カメムシ類はアカヒメヘリカメムシが主体

表2 水稻病害虫定点調査:水田内
(7月15~16日、20回すくい取り調査)

	アヒゲホソトリカスミカメ		アスジカスミカメ		トゲシラホシカメムシ		合 計	
	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)	確認 地点率(%)	虫数 (頭)
本年	13.3	0.47	4.4	0.18	4.4	0.04	17.8	0.69
前年	11.1	0.27	8.9	0.42	8.9	0.20	17.8	0.89
平年	4.4	0.08	1.7	0.05	2.7	0.04	9.3	0.17

※調査地点数45、平年値は過去10年間の平均

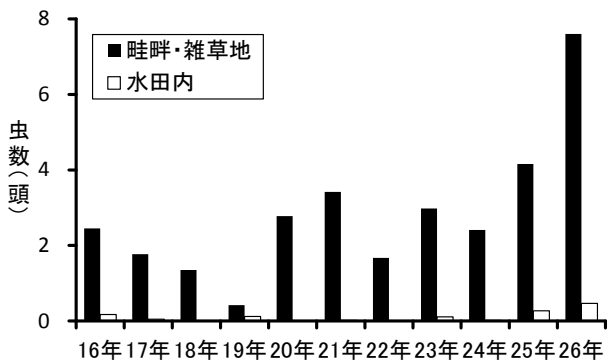


図1 アヒゲホソトリカスミカメすくい取り虫数の年次推移
(調査時期:7月20日)

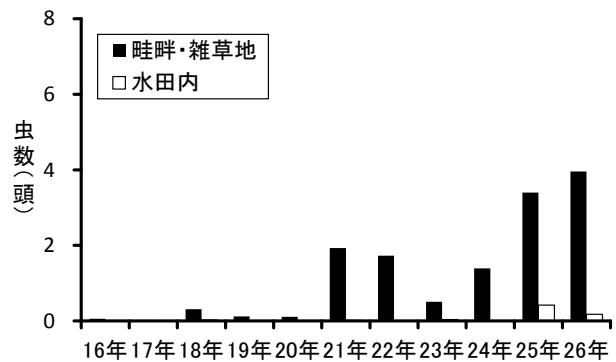


図2 アスジカスミカメすくい取り虫数の年次推移
(調査時期:7月20日)

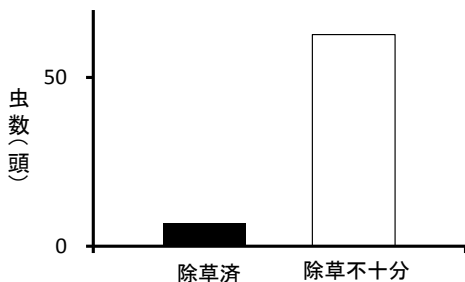


図3 畦畔の雑草管理と斑点米カメムシ類の捕獲虫数
除草済:適切に雑草管理されている地点
除草不十分:出穂したイネ科雑草が多く、管理が不十分な地点

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-5249 FAX076-429-2701